

学校だより 希望の鐘

ひとつの希望は、いさどしかならぬ



八戸市立 小中野中学校

平成30年11月27日(火)

No.138 文責：校長
工藤聡

大谷翔平と「タイムマネジメント」

平成30年も、あと1か月ほどで終わりです。まだ1か月あるわけですから、みなさんにとってどのような一年間であったかという評価はまだできないと思います。ただ、「いい一年でなかった」という人は逆転をねらって、「自分にとってまずまずだった」という人は、もっともっといい年になるよう、それぞれの残り1か月をいろいろな意味で集中して過ごしてもらいたいと思います。

さて、この一年、日本をわかせた人は何人かいますが、誰もがその名前をあげるのにはメジャーリーグのロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手ではないでしょうか。今年は、全米野球記者協会によるアメリカンリーグ新人王に、圧倒的多数で選出されました。日本人選手としては、史上4人目となる快挙であり、ピッチャーとバッターの二刀流での受賞は、史上初めてのことです。

その大谷翔平選手に関する話題が最近いくつか出ていますが、今日はその一つ紹介します。

「翔平のプライベートな時間は、二刀流を続けるためにある」「自由時間はすべて、自らを高めるために使っている」こう語るのには、日本ハム時代に大谷翔平と同じ5年間を投手コーチとして過ごした黒木知宏氏。栗山英樹監督を含め、周囲の人が大谷翔平というアスリートを語るとき決まって「時間」という言葉が使われるのが特徴的です。

投手と打者。大谷選手は前代未聞の二刀流をプロの世界で、しかも、信じられないような高い次元で実現させてきました。24時間365日という、すべての選手に平等にある「時間」。この「時間」と向き合い、「投手だけに時間を使う」「打者だけに時間を使う」のではなく「両方に時間を費やす」という至難の業をやったのけてきました。そして、アメリカに渡っても、大谷選手こだわりの二刀流はさらに進化を遂げ、大リーグの舞台でも認められるスタイルになりました。

黒木氏の口から大谷選手の時間の使い方の話題が出たとき、こんなエピソードを思い出しました。それは今から3年前のテレビ生放送終わりのこと。この年の2015年、オールスターの初戦に先発登板したその日の夜、番組に生出演してくれました。番組終了後、出演してくれたお礼に軽く食事に行きましょうと番組スタッフがお店を予約しようとしたところ、彼はこう答えました。

「お店は予約していただかなくて大丈夫ですよ。ぼくはフジテレビの社食（社員食堂）に行きたいです。社食に行きましょう！」その10分後、大谷選手は夜遅い時間のお台場フジテレビの社食で、社員に混じりながら美味しく牛丼をほお張っていました。

食事が終わり、社食を出る時に「大谷君、社食で大丈夫でしたか？」と聞くと、彼は「田中さん、大丈夫ですよ。会社の社食に興味がありましたし、お店へ向かう移動時間のことを考えると社食で十分ですよ。時間がもったいないので」と笑顔で答えました。

彼が何げなく話した「時間がもったいない」というフレーズが、今でも僕の脳裏に焼き付いています。二刀流を実現できた裏側には、彼の時間に対するこだわりがあったのです。「ナイターで18時にマウンドに上がる時にはすでに、翌日のタイムスケジュールがすべて頭の中に入っている」と言われているのもよくわかる気がしました。

冒頭の黒木氏の表現を聞いた時、大谷選手は緻密で妥協のないタイムマネジメント能力によって「大谷翔平」を作り上げていると確信しました。先日、日本に帰国し、会見で「肘の手術をして良かった」と答えた大谷選手。この言葉を聞いて、自らを作り上げてきた巧みなタイムマネジメント能力によって、すでに投手復帰のタイムスケジュールはできていると感じました。

大谷選手を語る時、「時間」という言葉が常に頭を巡ります。来季以降、どのタイミングで二刀流が完全復活するのか、楽しみで仕方ありません。

「タイムマネジメント」とは、時間あたりの生産性を高める時間管理のことを言います。簡単に言えば、3時間勉強したとしても、その中身が、音楽を聞いていたり時々ラインのやりとりをしていては時間をかけただけの効果を得られないので、タイムマネジメントができていないことになります。中学生にとってだけでなく、忙しい現代人には心得ておかなければならないことです。大谷翔平選手の華々しい活躍にばかり目が行きがちですが、こういう地道な、そして日々の細かい行動や考え方が結果を支えていることに、我々も学ばなければならないと思います。特に3年生にとって、今後のタイムマネジメントが、受検の可否にストレートに関係してくるかもしれません。

充実したPTA活動に感謝いたします

先日とは言うまでもない前のことになります。11月10日と11日の二日間、八戸市で第53回青森県PTA研究大会が開催されました。その全体会が八戸市公会堂で行われたのですが、県内の優良PTA

- ▽優良PTA 函南小、日計ヶ丘小、小中野中、八戸東中(以上八戸市)、十和田東小、松陽小(以上十和田市)、岡三沢小(三沢市)、脇野沢小、田名部中(以上むつ市)、姥沢小(東北町)、馬門小(野辺地町)、天間東小(七戸町)、風間浦中(風間浦村)、名久井小(南部町)、田子中(田子町)、倉石中(五戸町)
- ▽PTA活動振興功労者 高橋鉄造(南郷小)、星秀勝(前日計ヶ丘小)、武部勝信(小中野中)
- ▽杉本昇一(北稜中)、長沢とも子(切田中)、馬場亨朋(三沢三中)、野中貴健(大畑小)、花松健一郎(天間林中)、相馬大希(前東通小)、中田一(石鉢小)
- ◇2018年度第49回青森県PTA連合会広報紙コンクール
- ▽推薦 桔梗野小、西園小、中居林小(以上八戸市)、三沢二中(三沢市)、▽特選 町畑小、柏崎小、白山台小、八戸一中、白山台中(以上八戸市)、▽入選 吹上小(八戸市)、ちとせ小(十和田市)、三沢小(三沢市)、根城中、小中野中(以上八戸市)

であり、私としても大変うれしく思うと同時に、活動を支えていただいております保護者の皆様、そしてPTA会員の諸先輩方に深く感謝申し上げたいと思います。

本校のPTA活動を顕著に物語っているのは、広報紙「ともしび」ではないかと私は思います。最近では、多色刷でビジュアル的に目立つ広報紙が増えてきましたが、「ともしび」は白と黒の二色です。それでも県や市の広報紙コンクールにおいて、常に入賞の榮譽に輝いているのは、その記事の内容が大変充実しているからです。そして、その陰には、広報委員の方々の献身的な取材や編集活動があるのだと思います。これは、広報委員会だけでなく本校のすべてのPTA活動にも言えることですが、生徒の教育環境整備や会員の親睦を深めるような地道な活動こそが、生徒の成長やPTA活動の無理のない継続につながるのではないのでしょうか。派手なパフォーマンスやその場限りの企画では、続かないばかりか周囲に疲労感・徒労感を与えることにもなりかねません。本校のPTA活動が71年にわたって継続され、いろいろな面で評価されていることに、保護者の方々の思いを感じます。私も生徒も、それを当たり前なことと捉えないで、保護者の方々の活動に報いるためにも頑張っていかなければならないと思います。この機会に、充実したPTA活動をご提供いただいていることに、校長として心より感謝いたします。いつもありがとうございます。(県大会でも、本部役員の方々には二日間お手伝いいただきました。こちらもお礼申し上げます。)

【今日のひとり言】

●昨日は、小中野小学校とのジョイントスクール事業ということで、6年生が中学校に来校し、中学1年生と一緒に、国語・理科・家庭科・音楽の授業を受けました。私が最初に体育館に入ると、6名の女子児童(卒業生と在校生の妹さん3名も含まれていました)が話しかけてきました。「美術部に入りたいんですが、復活しないんですか?」「演劇部はできないですか?」「以前もらったぬいぐるみ、大事にしています」などなどです。中学校入学後は、吹奏楽部に入るという児童が3名もいました。6名以外の児童も、入学後の生活を楽しみにしているようです。小学生の期待に応えるためにも先輩となる1・2年生もやっておかなければならないことも、いろいろあると思います。例えば、今日の生徒朝会では、給食委員会や生徒会役員(さんとさん)が、大変いい発表をしてくれたのですが、ステージ上で礼をしてもそれに返す人が少なかった感じがしました。こういったことも、態度で後輩に教えるために、今から自然かつ確実にできているようなら素晴らしいと思いますよ。

●1か月前、小中野公民館祭りに行った時のことです。食堂で何か食べようと思ったところ、「みみっこ汁」という聞き馴れないメニューに目がとまりました。頼んだところ、ニラ玉汁にキノコと煎餅が入っているような感じの汁でした。食べると体がポカポカとしてきました。大変美味しかったので、みなさんにも紹介します。ごちそうさまでした。

領収証
みみっこ汁 150円
小中野公民館まつり 食堂部

●昨日の帰りの会の前のことです。3年1組の男子生徒が、職員室に配付物を取りにきました。私が「3連休、どれくらい勉強した?」と聞いたところ「1時間です」と答え、即座に「冗談です」と言いました。私の問いに冗談で返すとは…。『成長したなあ』という思いと、『本当に冗談であればいいなあ』という気持ちで、かなり複雑でした。この生徒に限らず、3年生にとってははいよいよ正念場(ショウネンバ:その人の真価が問われる大事な場面のこと)です。自らの希望する進路を実現するためにも、やるしかないですよ。